

平成27年度 第2回
北海道立総合博物館協議会

議事録

日時：平成28年3月23日（水） 10時開会

場所：北海道庁別館庁舎9階 第1研修室

平成 27 年度 第 2 回北海道立総合博物館協議会議事録

| | |
|-------|-------------------------------------|
| 会議名 | 平成 27 年度 第 2 回北海道立総合博物館協議会 |
| 開催日時 | 平成 28 年 3 月 23 日（水） 10 時～ 11 時 55 分 |
| 開催場所 | 北海道庁別館庁舎 9 階 第 1 研修室 |
| 出席委員数 | 7 名全員出席（委員名簿のとおり） |
| 傍聴者 | 1 名 |

※・単なる相づち及び言い直しなどは、原則として割愛する。

・内容に応じて《意見・提案》、《質疑応答》等の見出しを便宜的に作成した。

目 次

| | | |
|---|--------------------------------------|----|
| 1 | 開会 | 1 |
| 2 | 館長あいさつ | 1 |
| 3 | 議題 | |
| | 《会長あいさつ》 | 2 |
| | 議題（1）北海道博物館の評価方法のあり方について（答申） | 2 |
| | 《答申内容の説明》 | 2 |
| | 《意見・提案 1》 | 4 |
| | 《意見・提案 2》 | 4 |
| | 《意見・提案 3》 | 4 |
| | 《質疑応答 1》 | 5 |
| | 【答申書の提出】 | 6 |
| | 議題（2）平成 27 年度事業実績報告書（業務実績に関する内部評価報告） | 6 |
| | 【総括評価項目 1、2 についての報告】 | 7 |
| | 《質疑応答 1》 | 8 |
| | 《意見・提案 1》 | 9 |
| | 《質疑応答 2》 | 9 |
| | 《質疑応答 3》 | 9 |
| | 【総括評価項目 3 についての報告】 | 10 |
| | 【総括評価項目 4 についての報告】 | 11 |
| | 【総括評価項目 5、6 についての報告】 | 12 |
| | 【総括評価項目 7、8 についての報告】 | 13 |
| | 【総括評価項目 9 についての報告】 | 14 |
| | 《意見・提案 2》 | 15 |
| | 《意見・提案 3》 | 15 |

| | |
|-----------|----|
| 《質疑応答 4》 | 16 |
| 《意見・提案 4》 | 17 |
| 《意見・提案 5》 | 17 |
| 《意見・提案 6》 | 18 |
| 《質疑応答 5》 | 19 |
| 《質疑応答 6》 | 19 |
| 《意見・提案 7》 | 20 |
| 《質疑応答 7》 | 20 |
| 《質疑応答 8》 | 22 |
| 《意見・提案 8》 | 23 |
| 《意見・提案 9》 | 23 |
| 議題（3）その他 | 24 |
| 4 閉会 | 24 |

1 開会

右代学芸主幹 時間はまだ来ておりませんが、早速、始めさせていただきたいと思います。平成27年度第2回北海道立総合博物館協議会を開催いたします。本日、司会を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。はじめにあたり、当館の館長、石森よりご挨拶を申し上げます。

2 館長あいさつ

石森館長 皆様おはようございます。石森でございます。

本日はご多用の中を年度末にもかかわらず、皆様全員のご出席賜りまして、厚くお礼申し上げます。昨年7月に1回目の博物館協議会を開催させていただきました。その間4回、作業部会をお開きいただきまして、佐々木会長、大原委員、竹垣委員におかれましては、何度も夜のお忙しい時間帯にご参加いただきまして本当にありがたいことと思っております。

北海道博物館は、昨年4月に新たに発足したところでございますけれども、館員一同力を合わせて頑張り、また本庁サイドも様々な形でお力添えをいただきましたお蔭で、当初目標としておりました72,400人の入館目標を見事にクリアできまして、今、倍の15万人に近づいている状況でございます。以前の旧開拓記念館の時代の最後の方は、年間の入館者が5万人前後でございましたので、3倍ぐらいの勢いで、何とか好スタートを切っているところでございます。

今回の博物館評価の問題につきましては、私どもの総務部企画グループの方で、先生方の、委員の皆様方のご指導をいただきまして、特に、右代学芸主幹、会田学芸主査、田村研究職員がこの問題で様々な形で、夜遅くまで頑張ってくれておりまして、こういう積み重ねが、1つ1つ北海道博物館を前進させていくことになるのではないかと、期待しているところでございます。博物館協議会の皆様方の様々なご指導をいただきまして、より良い博物館としていきたいと思っております。本日も様々な形でご審議を賜り、答申をご提出いただければ幸いと思っておりますので、何卒よろしくお願いいたします。

右代学芸主幹 ありがとうございます。

それでは配布資料を確認させていただきます。まず本日の会議次第が1枚ございます。続きまして、これから答申に移りますが、答申の写しが皆様のお手元にあるかと思います。その次に「平成27年度北海道博物館事業実績報告」が手元にあるかと思います。資料については乱丁落丁、その他あるかと思いますので、もしあった場合には事務局にお申し付けくだされば幸いに存じます。

次に出席状況について確認させていただきたいと思っております。協議会の出席にあたりましては、各委員お忙しい中ご出席していただきまして、誠にありがとうございます。北海道博物館条例第25条第2項で定めております2分の1以上の委員の出席ということで、今回の協議会については成立していることをご報告させていただきます。また、本日の会議は2回目の協議会になります。委員の変更・事務局の変更はありませんので、これについてはご省略させていただきます。本日の会議は、道の公開条例に定められているとおり、公開とさせていただきます。本日は、傍聴者お一人が出席されておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、この後の議事進行を佐々木会長にお願いしたいと思いますので、会長よろしくお願いいたします。

3 議題

《会長あいさつ》

佐々木会長 おはようございます。開会にあたりまして、一言ご挨拶申し上げたいと思います。

去年の夏に1回目の協議会を開いてから、その時に知事名で諮問を我々いただきまして、北海道博物館の評価方法のあり方について検討しなさいということでした。今日、議題にもありますように、評価方法について答申する運びになります。ここに至るまで、特に去年の夏の協議会以降、先ほども館長からお話がありましたが、大原委員、竹垣委員に4回の評価作業部会のメンバーとして参加いただきました。尚且つ、他の委員の方にも年度末のお忙しいところ、事務局が説明にあがったり、そのような成果の上に、ようやく今日このような答申案を出すことができました。何よりもこの評価作業部会に自分も参加して、4回いつも午後5時から7時まで道庁別館で開催したのですが、副館長の吉田さんを始めとする事務局の方々が本当に良く対応してくださって、こちらが課題を投げかけたことに関して一定の答えを出して、私たちと本当に真摯なやり取りができたと思えました。心から感謝を申し上げたいと思います。新しい博物館になり、ふさわしい優れた対応をしてくださったと、たぶん評価作業部会のメンバー一同感じていることと思います。この場を借りてお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

それではこれから議事に入りますが、議事の円滑な進行についてご協力申し上げます。本日の議題ですが、お手元にありますように、「北海道博物館の評価方法のあり方について」の答申と「平成27年度北海道博物館事業実績報告」、これはいわゆる内部評価報告に当たるものですが、これについての報告となっております。協議会の終了時間は概ね12時を予定しておりますので、皆様ご協力よろしくお願いいたします。

議題（1）北海道博物館の評価方法のあり方について（答申）

《答申内容の説明》

佐々木会長 さっそく議事に入りたいと思います。

1つ目、答申についてですけれども、皆様のお手元に既に写しが、配付されていることと思います。それについて私の方から説明したいと思います。「北海道博物館の評価方法のあり方について」の答申案は、1回目の協議会でご了解いただきまして、大原委員、竹垣委員と会長の私の3名と事務局とで、評価作業部会を4回実施してまとめたものです。もちろんこれは、これからバージョンアップし、より良いものになっていくと思います。まず出発点としてまとめたものです。また、3月上旬から中旬にかけて、委員の皆様にも事務局からご説明したものと同じ内容のものとなっております。

1 ページ目に、この答申の骨子、全体の枠組みが説明してありますので、私の方から説明したいと思います。

これは高橋知事宛てに、協議会から答申として提出するものでございます。全部で6項目書かれております。答申項目の1番目、北海道博物館の評価については博物館による内部評価、これは資料の1番にあるような、これは今年は試行的に行っているのですけれども、そういう評価と、加えて第三者による外部評価が必要です。これは博物館に限らず、多くの組織で行われていることだと思います。

答申項目の2番目は、「博物館が実施する内部評価は、博物館の基本的運営方針及び中期目

標・計画に基づいて評価項目を設定し、評価判定を行う」ものです。つまり、基本的運営方針や中期目標・中期計画という特にオフィシャルになっている計画に基づいて、どのくらいこの年度進んだか、もしくは何年か経ってどのくらい達成されているか、ということを経営でまず点検・評価していきましょうというのが、2つ目の項目です。

答申項目の3番目、内部評価に関する資料は、このあとに資料1番、資料2番、資料3番というように、内部評価委員会の設置要綱や実施要領、実施シートという形で添付されております。この細かなことについては、後ほど、議題の2つ目のところで内部評価報告の具体的な内容が説明されますので、その時にまた事務局から報告・説明いただきながら進めて行きたいと思っております。

答申項目の4番目です。これは協議会に関係することです。「第三者による博物館の外部評価は、北海道立総合博物館協議会が実施する」、つまりこの協議会が実施するとなっております。

「また北海道立総合博物館協議会アイヌ民族文化研究センター専門部会は、外部評価のための基礎的な意見交換の役割を担うこととする」とあります。ここは、事前の説明でも、また評価作業部会のメンバーでも非常に議論になったところです。外部評価の役割は協議会が担う、こういう組織の外部者の位置付けとして、評価を行うような立場で位置付けられている組織と、あと評価ではなくてこの評価結果とか計画に基づいて、より良い方向にどのように組織を発展させることができるのかというように、提案したりサポートしたりするような組織とが、2つあるのですけれども、ここの4番目の位置付けでは、外部評価はこの協議会で行うという位置付けとなっております。前者の方、私が言った評価を行うという作業が、この協議会の専らの役割になるのかと考えております。

皆様のお手元の資料の4番、一番最後になりますけれども、ここを見ていただきたいと思っております。資料4番になります。

この評価作業部会で検討して、最終的に外部評価をどういう範囲で行うかということを決めたものが、最後の紙の裏面に外部評価の項目、ここでどの範囲で外部評価をやるかということの、おおよその枠組みが示されております。大きく5つに分かれています。最初の1つ目と2つ目というのは、内部評価に対する結果をもう一度評価し、外部者の立場として評価が妥当であるのかどうかについて、同じ基準でもう一度第三者が点検する。これが①番。内部評価についての二次評価の形の外部評価になっています。

2つ目は、この評価実施シートの構造とか、評点の根拠とか、あとデータ収集の方法とかが、適切であったかどうかを点検します。これは①とセットだと思いますが、内部評価結果を更に評価するにあたって、もともとの内部評価の枠組みがどうなのかも外部評価の対象とすると示されています。この①番と②番目がセットになっております。

これ以外に、例えば③番、④番、⑤番は、1つは各年度の事業計画、これは全ての事業計画という意味ではなくて、いくつかあまり芳しくなかった活動であるとか、例えばアンケート等であまり満足度が高くなかった事業、展覧会とか特定の事業に対して、社会的なニーズや博物館の目標と、実施した事業の目的との間に整合性が本当にあるのかどうかを、チェックするような評価という意味で、整合性を見る評価として、3番目の評価項目にあげています。

④番目、⑤番目となる項目はどちらかということ、組織自体が健全に回っているのかどうかを見るものです。博物館の各部門や個人の目標等の管理体制の現状がどうなっているのかを点検する項目が④番目、博物館の運営体制に対する道庁側の支援体制、もしくは館内のガバナンス

を見る項目として、⑤番目の項目をあげています。④番、⑤番はどちらかという、組織自体の点検、組織のあり様、健全性を見る点検項目だと思います。このように、大きく5項目で外部評価をやっというのが、この答申の趣旨でございます。

もう一度最初のページに戻りますが、私が説明した内容というのは、1ページ目の答申項目5番目「外部評価に関する資料は、別添の資料4である」としている資料です。

最後の項目は、もしかしたら答申すべき内容とは少し異なる範囲かもしれませんが、すごく大事なことだと思います。この協議会が、外部評価を専ら行う組織だという位置付けであるとする、やはり博物館に対してより積極的なサポートをしたり、事業に関する具体的な提案をする外部組織が必要だと思います。そのために、答申項目の6として「道民参加型組織を立ち上げ、外部としての意見聴衆・交換の機能を充実させるため、館長の諮問に応える組織をつくるのが望ましい」、望ましいという表現をしていますけれど、やはりこういう組織があることが博物館の発展に対して大事であるという評価作業部会の見解であります。

皆様にはすでに事前に説明してあると思いますが、これについて皆様、もし何かこの場で特に付け加えたいことがございましたら、ご発言を求めたいと思います。特に、評価作業部会のメンバーの方々にお願いします。

《意見・提案1》

加藤副会長 何も言うことのない、立派な作り方です。これだけの説明を聞いただけでも素晴らしい。中身はこれからの話ですね

佐々木会長 中身を埋めていくデータをつけていく作業はこれからの作業、魂を入れるのはこれからだと思います。

《意見・提案2》

宇佐美委員 本当に評価作業部会の皆様ご苦労様でした。大変素晴らしい基準ができたと思います。

それで以前からいろいろと議論がありましたけれど、この協議会は外部評価をする組織であるということは再確認されています。その一方で、6番を付け加えて、館長の諮問に応える別の組織を置いて、いろいろ言っただけの組織を作ることが望ましいということをつけ加えてくださったことが大変よかったなと思います。1回目の終わりに少し議論があったかと思うので、外部評価をすることが我々の使命でもあります、それ以外についてもご意見を伺うということ、聞く耳を持つという姿勢がやっぱりあった方がいいと以前から思っております。この部分を付け加えていただいたことも大変良かったと思います。

佐々木会長 ありがとうございます。

《意見・提案3》

竹垣委員 我々評価作業部会として、やはり元々の発想点はどちらかという、我々は応援団なんだろうと、応援して行くのだろうと思っていたので、外部評価という話が入った時はちょっと矛盾も感じました。アイヌ民族文化研究センターの専門部会の時もそういう意見が出ていたように思います。

よく考えてみると、この協議会は博物館の組織ではなくて北海道の組織です。ですから外部

評価専任というのは、それはそれでいいのかなと考えます。また中期計画の中に道民参加型組織というものがあるので、それでやっていったらいいのかなという気がしています。

そこで、特に加藤先生にご確認したかったのは、4番のところですが、協議会そのものは、確かに外部評価を専らするところがいいと思ったのですが、それでは、専門部会は本当に基礎的な意見交換の役割でいいのかということは、この評価作業部会グループでも相当議論になりました。アイヌ民族文化研究センターというのは、中期的には北海道博物館のバックボーンとして統合されていく存在なのだろうと思うのですが、専門部会は基礎的な意見交換の役割でいいのかなと考えたのですが、そのあたり加藤副会長どうでしょうか。

加藤副会長 何とも言えないけれども、ただ、過去にこのような評価の関係をやったところとかあるのか。過去にこういう博物館に外部や内部の評価をしていた、というのはどうですか。

佐々木会長 道立の組織では、今まではないと思います。

加藤副会長 ないですね。

佐々木会長 私が見る限りは。

加藤副会長 ですから、まずはスタートをさせてみて、そこから何かが見えてくるかなと思って聞いていました。やらないから何だかんだではなくて、スタートさせてみて、そこからどういう反省が生れるのか、どういう評価ができるのかが、これからの課題になってくることなどを考えることが大切です。私自身そう思って見ていました。

竹垣委員 そういう意味も含めて、特に内部評価の中身よりも、そのプロセスというか、管理体制であったり、ガバナンスであったり、そういうものをあげていったつもりです。やはり、やり方も見たいというところですが。

加藤副会長 これは、企業にも当てはまる話であって、企業は利益を得ないと倒産するわけですから。それは常に反省がなければ、そこでだめになってくる企業が出てくるわけだから、同じことが言えると思う。そういう意味では何も道立だから、私立だからではなく、全てがその上に立って物事を進めていかなければ、その企業は成り立って行かないと思っております。これからのことで非常に良い評価のことを、いま目を向けてやっているのだなと思って、私としてはいい考えだと思っております。だから、ご苦労するところをご苦労して、時間を作って、大原先生もそうだし、聞いていましたけれども、良かったと思っております。これは何が良かったかというと、北海道博物館に対してきちんと締まった思い、職員も全てそうですけれども、評価をするということは、きちっと自分たちがやっていることが何でかということ、いつも心に留めながら仕事をしている1つの部類に入っていくのかなと思って見ていました。そういう意味では、あれこれと言う必要はないと、大変良いことをやるなと思っております。以上です。

《質疑応答1》

宇佐美委員 今のことと関わって、私も気になっていたのです。このアイヌ民族文化研究センター専門部会の意見交換の中身というのは、外部評価を我々がする場合に、専門部会ではこういう意見交換がありました、ということで示されるのですか。

佐々木会長 当然示されるものだと思ってます。

宇佐美委員 示された上で、私たちはこれに則って評価していく、そういうことでいいですね。

佐々木会長 協議会全体として、評価していくということです。

宇佐美委員 協議会として、意見は資料として出されるのですか。

佐々木会長 当然、出ないと意味がないです。

宇佐美委員 そうですね。そういうことですよね。

佐々木会長 事務局、大丈夫ですね。

事務局 はい。

佐々木会長 他にどうでしょうか。もし、特にご意見等がなければ、これを以て「北海道博物館の評価方法のあり方について」の答申とさせていただきますと思います。

【答申書の提出】

佐々木会長 ありがとうございます。皆様のご了解をいただきましたので、「北海道博物館の評価方法のあり方について」を答申したいと思います。石森館長に答申書をお渡しいたしますので、よろしくお願いいたします。

北海道知事高橋はるみ様。北海道立総合博物館協議会会長佐々木亨。「北海道博物館の評価のあり方について」の答申です。平成27年8月4日付け北博489号で諮問のありましたこのことについて、下記の通り答申いたします。この協議会のメンバーの全員で検討いたしました。これからの運営に是非資するような評価を行っていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

石森館長 皆様、本当にありがとうございました。確かに、知事のもとに届けさせていただけます。改めまして、本当に皆様の議論いただきましたことに対しまして、厚くお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

議題（2）平成27年度事業実績報告（事業実績に関する内部評価報告）

佐々木会長 それでは続きまして、「平成27年度北海道博物館事業実績報告」、内部評価報告にあたるものですが、これについては皆様のお手元に資料が既にあると思います。右代学芸主幹よろしくお願いいたします。

右代学芸主幹 事務局から若干のご説明をさせていただきます。お手元にある資料「平成27年度北海道博物館事業実績報告書」に沿って、ご説明したいと思います。

本来であれば、答申を受けてから内部評価を実施すべきところですが、試行という形で、今回、平成27年度の事業について内部評価を実施させていただいたものでございます。各グループで項目別評価を実施し、内部評価委員会の中で総括評価を実施した、というのがこの報告書でございます。

1ページを開いていただきたいのですが、「はじめに」で、評価についての基本的な考え方をまとめてあります。「I」の「北海道博物館の概要」では、(1)設置目的から(8)アイヌ民族文化研究センター事業推進方針について示しております。それから総括評価項目1から項目9まであります。この内容に沿って総括的な評価をしていったということでございます。項目別評価でございますが、これについては横表がございます。17ページ以降になります。19ページを見ていただきたいのですが、総括評価・項目別評価項目一覧として、こういう形で資料を構成させていただいております。これは、北海道博物館の研究および事業を担うグループがございまして、そのグループごとに実績を整理し、主幹がそれを評価して、内部評価委員会で総括評価を行って、内部評価としてまとめたものでございます。そのまとめたものが7ページから16ページにあたるところでございます。今日は、その総括評価の項目ごとに説明を進めさせて

いただきたいと思ひます。

まず、総括評価の項目 1 から 3、及び 5 から 6 については舟山学芸部長よりご説明いたします。項目 4 および 9 につきましては、北総務部長よりご説明いたします。項目 7 から 8 につきましては小川アイヌ民族文化研究センター長よりご報告させていただきたいと思ひます。項目 9 につきましては、中期目標・計画にはない項目で、これは先ほどの佐々木会長のご説明にもありましたが、評価作業部会の中で提案を受けて、新たにこの項目 9 を設定いたしました。あくまでも、今年度は試行であるということ念頭に置きながら進めさせていただければと思ひております。それでは項目ごとにご説明をしていきます。

舟山学芸部長、よろしくお願ひいたします。

【総括評価項目 1、2 についての報告】

舟山学芸部長 おはようございます。私から総括評価項目 1、2 をご報告させていただきます。資料 1 の「平成 27 年度北海道博物館事業実績報告書」の 9 ページでございます。

9 ページの総括評価 1、2 は、評価の視点としましては「博物館活動の基盤となる展示調査研究等を推進させる措置」及び「道民が特色ある地域文化の創造や地域活性化の拠点とするための措置」、この 2 点でございます。対象となる項目別評価は、実施シートが資料の 21 ページから 29 ページの目標値番号 No.1 から No.7 です。

項目別評価実施シートを各グループで自己点検・評価いたしまして、それをもとに総括評価を実施いたしました。第一段階の項目別評価結果は、9 ページの下段の表でございます。No.1 の「北海道博物館としての必要なコレクションの受入れ・登録」、これについては評価基準 A でした。2 番目の「公開承認施設としての資料保存環境の整備」は、A 評価。3 番目「総合展示の維持管理と資料の入替え」につきましても、A 評価です。4 番目の「総合博物館としての様々な企画展を計画・実施」も A 評価。5 番目「総合博物館として幅広い研究プロジェクトの計画・実施」につきましても A 評価。6 番目の「科学研究費補助金等の公的機関等からの研究費の獲得」も A 評価。7 番目「旧北海中学校など建造物整備・修繕計画の策定」につきましては、B 評価でございます。

これに対して、総括評価をいたしました。結果は、9 ページの真ん中に記載してございます。総評ですが、中期目標・計画の項目番号の 1 から 4 に対応し、項目別評価では 21 ページから 29 ページまでの課題が該当します。これについて総評いたしております。「評価すべき取組」につきましては、「文化財保護法に基づく公開承認施設の承認」を受けたということで、これにより夷曾列像展が実施できました。「総合展示室利用者数の目標値を大幅に更新」、これは年度目標値が 72,400 人でしたが、利用者数では平成 28 年 1 月末までで 142,554 人になっております。特別展示室利用者数におきましても、目標値 57,600 人であったのに対して、利用者数は 1 月末までで 10 万人を超えております。クローズアップ展示等の計画的な展示替えを総合展示で実施しておりますし、その他、名称を常設展示から総合展示と改めたように、常に新しい展示を心がけて展示替えを実施してきたことを、評価する取り組みとして取り上げております。

合わせまして、「海外機関との共同研究事業の実施」は、ロシア・サハリン州及びカナダ・アルバータ州との調印締結を交わし、今年度から共同の研究体制を組んで参りたいと考えております。

「改善・注視を要する取組」としては、「資料収集・保存業務における関係グループ間の連携

(計画的な受入態勢の確立など改善が必要)」をあげております。合わせまして IPM、これは管理の体制のことではありますが、「IPM の重要性等に係る職員への周知 (質の高い保存環境の維持活動を展開する観点から改善が必要)」ということです。「総合展示室の外国人利用者数」については、目標値 3,800 人以上でありましたが、1 月末で 2,770 人と下回っており、改善する取り組みとしてあげています。

「総体的な評価」であります。評価基準の判断根拠を含めまして、項目を 2 つあげていますように、総括評価項目 1 については、項目別評価は概ね妥当であり、A 評価とする。項目 2 におきましては、開館初年度としての事業展開に重点を置いた関係で、十分に実施したとは言えないことから、B 評価として内部評価を終えております。

以上でございます。

佐々木会長 ありがとうございます。

先ほどの答申の中にあつた内部評価の実施シート。答申書では空白のシートだったのですが、そこにこうして実際に博物館の方が、この 1 年間の活動について内部評価をやった結果が文字として入ってくると、具体的なリアル感が出てくると思います。

評価の活動は文化的な存在だと思うのですが、その組織のカルチャーにすごく依存すると思います。総括評価 1 番と 2 番の項目を舟山さんからご説明いただきましたが、素朴な質問や、この数字はどうしてこのように入るのかという疑問点など、多々おありかと思ひます。委員からの質問なり、ご意見なりをお受けしたいと思ひます。内部評価の枠組み自体が、いいのかどうかという話にも繋がってくると思ひます。より改善できる点もこれから多々出てくると思ひますので、皆様ご意見、ご質問等をお願いします。

《質疑応答 1》

宇佐美委員 基本的な質問でよろしいですか。

佐々木会長 基本的な質問がすごくいいと思ひます。カルチャーが違つると、全然理解できない部分もあると思ひます。

宇佐美委員 内部評価は、どのようなメンバーでどのように実施したのかが、よくわかりません。学芸グループだつて、いろいろあります。これが自分達のところを評価したのか、他のメンバーが見て評価したのか、あるいは総合的な内部組織を作つて評価したのか、よくわからないのです。

佐々木会長 その概略をご説明いただけますか。答申書にも書いてありますけども。

宇佐美委員 どこかに書いてあつたのでしょうか、もう一回お願いいたします。

右代学芸主幹 答申書の中に、内部評価委員会設置要綱があります。その中に、どのようなメンバー構成かが、2 枚目の裏側に書いてあります。

宇佐美委員 ありますね。すみません、よく読んでなかつたです。

佐々木会長 先ほど、例えば舟山学芸部長のご説明で、「何々グループからあがつてきております」と言っていますが、その「あがつてきた」後はどうなつているか、そのプロセスを簡単にかい摘んで説明していただけますか。

右代学芸主幹 プロセスについては、シート別項目の項目表に各グループ、博物館基盤グループ、道民サービスグループ、それから社会貢献グループ、それから企画グループ、それから総括グループがあります。そこで点検をしております。点検をしたことに対して、そのグループ

リーダーが総括して、項目別のシートで評価をしていくという作業になります。このシートがあがってきた段階で、内部評価委員会を開いて、先ほどご説明したメンバーで評価をしていきます。内部評価委員会で各グループリーダーがレクチャーをして評価をし、それをまとめたのがこの総括評価というシートにまとめてあるものです。

宇佐美委員 9ページ下の表にあるのは、全部現場からあがってきている評価ですね。

右代学芸主幹 そうです。

佐々木会長 下の表にある1番から7番は現場の評価です。

右代学芸主幹 「項目別評価の結果」というのが、現場からのものです。

佐々木会長 総括評価のA・Bというのは委員会の見解ということですか。

右代学芸主幹 そうです。

佐々木会長 わかりました。

《意見・提案1》

大原委員 今の話の繰り返しになるかもしれませんが、報告書の作りとしては、「はじめに」の裏ページには、右代さんが説明された、何月にどういうデータがあがってきて、何月に内部委員会を開いて、その結果を報告するという内容が欲しいと思います。さらに、委員会の構成メンバーが記載された方が、構成としては良いと思います。

佐々木会長 役職名ではなくて、だれだれ部長という形で。

大原委員 年度によってメンバーが違うので、そうした方が良いと思います。

佐々木会長 そうですね。

《質疑応答2》

大原委員 今、私たちは報告を受けているのですが、たぶん中間年の平成29年に改めてこの内部評価をまた評価するわけです。外部評価として、今の報告を受けるという立場です。ここで何か評価をする立場なのでしょうか。それがよくわからないのですが。報告を受ける立場ですか。

右代学芸主幹 そうです。

佐々木会長 今年度は、協議会として何か評価、答申以上のことをやる予定ではない、ということよろしいですね。

右代学芸主幹 はい。

佐々木会長 この報告内容について、その経過とか進め方について疑問点があれば、今ここで解消しましょうという会議と考えています。

《質疑応答3》

佐々木会長 他にいかがでしょうか。私から1つ。例えば、総括評価をやるときに、9ページですが、これは前から評価作業部会をやっているときにも指摘があったと思うのですが、例えば総括評価2で何を見るかという、ここは「道民が特色ある地域文化の創造や地域活性化の拠点とするための措置」、という項目です。その下位に付いている項目別評価が、この下に出てくるこういう項目で本当にいいのかどうかという議論はなかったのでしょうか。ここは、計画の根幹に関わる場所なので、今回ここは手を入れない前提で、この全体の枠組みを作って

いるわけですが、やはり後ろの細かな 21 ページ以下を見ていくと、総括評価 2 番目で言っている、目指している方向と、今回チェックしている項目がどうもじっくりこないと直感的に私は感じます。今ここで直せとか、良くないとかいう訳ではなくて、そういう議論は内部であったのでしょうか。

右代学芸主幹 もちろんあります。基本的に、中期目標・計画が基本にありまして、それで各グループごとの仕事なり何なりというのが当てはまってくると思っております。前回もお話しましたが、ツリー構造で示すと、いろいろ重なり合うところが出てきてしまいます。かなり入り組んでいる点を、今ご理解いただいているのかと思うのです。これは、将来に向けてどのように整理していくかというのは、次の中期目標を計画していく段階で、徐々に整理して行かざるを得ないと思っております。

佐々木会長 そういう認識が必要かと考えています。ただ、この総括評価 2 で出ているような項目にすごく近い項目別評価は、25 ページに出ているような道民参加の展示が化石の展示会で行われたとか、そういうところはすごく近い話だと思いますが、それ以外のところはどちらかというと、基本的に博物館の機能をチェックしているに過ぎない部分が多かった気がするので、やはり今後の改善の意識は大事だと思いました。

他どうでしょうか。また最後に戻っていろいろあるかもしれないので、1 回進めて行ってよろしいでしょうか。構造的な質問など、あるかと思っております。

今、舟山学芸部長がご説明くださった総括評価項目 1 と 2 については一旦これで終りにして、次の 3 番をお願いします。

【総括評価項目 3 についての報告】

舟山学芸部長 資料 10 ページでございます。「道民と共に歩み、愛される博物館として、豊かな時間と空間を提供します」という基本方針に則った総括評価 3 といたしまして、「利用者の視点に立った博物館づくりへの措置」、様々な人々が繰り返し訪れ、親しまれ、わかりやすく、おもしろく、ためになる博物館を目指し、利用者の視点に立った創意工夫に満ちた博物館づくりを推進するためのものです。項目別評価につきましては、下段の表にありますように、No.8 から 17 です。内部評価実施シートにつきましては、30 ページから 39 ページになります。

No.8「子ども向けの魅力あるイベントの充実」ということで、教育普及に関したものです。評価基準 A としております。9 番「子ども向け教材の開発」におきましても A 評価。10 番の「はっけんプログラムの運用」につきましても A 評価となっております。11 番「ミュージアムエデュケーターに関する取組」は B 評価。12 番の「アメニティ設備の設置、オリジナルグッズの販売、設備の活用」、こちらはカフェとかミュージアムショップに関連するところではありますが、B 評価となっております。No.13 は、内部評価実施シートにおきましては 35 ページになります。バス停の移設等お客さまの利便性向上につながる事業を実施していることから、A 評価となっております。14 番につきましては「野幌森林公園内の利便性と満足度の向上」ということで、自然公園に関連する関係団体との連絡調整、あるいは厚別区関係機関との全面調整、「かるちやる net」など、様々な社会教育機関との連携等、お客様の満足度を向上させるための事業を推進しております。これについては A 評価となっております。15 番、内部評価実施シートは 37 ページになります。「広報活動の強化」は A 評価としております。16 番、内部評価実施シートは 38 ページになります。「赤れんが庁舎の活用」は、B 評価となっております。17 番の「利用者

調査を含む評価制度の方向性の打出し」につきましては、具体的には後に総括評価4でご報告いたしますが、A評価になっております。

総評にありますように、中期目標・計画No.5から6、そして8、9、10の5課題につきまして、評価すべき取組は、イベント参加者数の目標値を大幅に更新している点で、目標値3,200人に対して倍以上の7,135人になっております。「多言語対応音声解説サービスの開発」は、4月の運用に向けて最終段階に入っておりますが、このサービスを開発したことです。合わせて、バス事業者への働きかけにより、バス停の移設を実現し利便性が大幅に向上したことです。また、ホームページアクセス数の目標値を大幅に更新したということで、評価すべき取組としてあげております。

改善・注視を要する取組は、「はっけん広場及び子ども向け教材の開発（利用者ニーズを踏まえた利便性を高める改善が必要）」、「利用者の視点に立った効果的な施設活用（利用基準等の検討が必要）」です。これにつきましては、カフェ、ミュージアムショップの充実はもちろんですが、様々な館の機能、記念ホールやグランドホールなどの施設・設備がありますので、これをもう少し一般にご利用していただくような手続きができないかを検討しているところです。また、愛称ロゴマークを作りましたが、この周知をもう少し取り組んでいく必要があると思えます。「赤れんがサテライト」の情報発信につきましては、展示内容や各市町村との連携の部分の運用面の改善等が必要と感じております。「ミュージアムエデュケーターに関する取組」につきましては、方針、博物館としてやるべき方向性も含めて、あり方を明確化し、より積極的な取組が必要です。

総体的な評価として、全般には十分実施しているという評価でA評価としております。内部評価実施シートの資料につきましては、評価すべきところ、28年度に向けて改善すべき点について項目をあげております。以上です。

佐々木会長 ありがとうございます。今の総括評価3に関して、個別の質問いかがでしょうか。

竹垣委員 最後までやった方がいいのではないのでしょうか。

佐々木会長 よろしいですか。引き続き、お願いいたします。次は4番ですね。

【総括評価項目4についての報告】

北総務部長 北でございます。よろしく願いいたします。

11ページの総括評価4「道民との連携、協働する博物館づくりへの措置」をご覧ください。基本方針では、「博物館の様々な活動に、道民が利用者としてだけでなく、協働者、ときには発信者として多面的に参画する機会を創出することによって、博物館活動をより豊かに、道民との連携、協働する博物館づくりを推進します。」と謳っております。

総括評価につきましては、十分に実施しているということでA評価とさせていただきます。総評といたしましては、中期目標・計画のNo.7番及び10番でございます。内部評価実施シートで言いますと39ページ、及び40ページになります。それぞれと対比してご覧いただきたいと思えます。

評価すべき取組として、総合博物館協議会を設置し、評価制度を導入いたしました。

次に、改善・注視を要する取組でございます。評価制度の円滑な運用が、まず課題としてあげられます。対応として、職員への丁寧な説明を行う等して、周知徹底を図ってまいります。それから、道民参加型組織の創設に向けた取組として、ミュージアム・パートナー制度等の創

設を考えております。これにつきましては、先週、先進地事例調査を実施し、先進地の内容をつぶさに把握してきております。今後、制度創設にあたり、費用面の課題等が残っております。

次に、総体的な評価についてです。内部評価実施要領を作成して、内部評価を試行実施いたしました。また、利用者満足度調査につきましては、中期目標・計画の中では70%という数字が示されておりますが、平均90%という高評価を得ております。先ほど、ご報告いたしましたミュージアム・パートナー制度の導入につきましては、他館における運営状況の調査の実施を踏まえ、制度創設に向けての組織作りや実施計画を策定してまいりたいと考えております。以上です。

佐々木会長 ありがとうございます。では引き続き5番、6番をお願いいたします。

【総括評価項目5、6についての報告】

舟山学芸部長 資料1の12ページでございます。

総括評価5は、「北海道の中核的博物館として、地域の活性化に貢献する措置」で、基本方針の「北海道の中核的博物館として、地域の博物館とのネットワークを強固なものとし、共同研究、事業連携、情報共有、資料の相互活用、人材育成等を積極的に推進することにより、地域の活性化に貢献します」という項目に対応するものです。項目別評価はNo.19、内部評価実施シートにつきましては41ページから42ページでございます。「連携及び交流の方針・計画案の作成」は、A評価としております。

総評としましては、評価すべき取組として、道内外の各種博物館との連携を実施し、目標値40件をほぼ達成して、38件という件数となっております。

改善・注視を要する取組としては「博物館交流の積極的な事業展開に向けた計画的な取組」です。これは、昨年4月18日のオープン以降、オープン特需と言いますか、各種学会等で連携して共催事業を多く実施できたことにあります。来年度以降の特需はないわけですので、様々な学会等に働きかけたり、主体的な博物館交流の積極的な事業展開に向けて取り組んでいく必要があるという評価であります。「出前講座・出前博物館の取組」につきましては、課題の明確化と計画的な取組をあげております。今年度は、基本的にオープン年ということで主要な事業がありましたので、具体的な外に出て行く事業につきましては、特に、学校関係の連携については構想だけで終わっております。したがって、来年度以降具体的にどのような連携のあり方があるかを含めて、検討していく必要があると思っております。

総体的な評価につきましては、各種博物館との連携は概ね目標値に達成していることから、項目別評価でAとなっておりますが、中核的な博物館としての計画的な連携や交流の取組を、これから十分に実施していくことが必要であると勘案し、総括評価はBとしております。

続きまして、総括評価6の「道民の知的興味に応える博物館づくりへの措置」でございます。この評価は、基本方針の「博物館ネットワークを活かし、情報の発信力を高めるとともに、レファレンス機能を強化し、道民の知的興味に応える博物館づくりを推進します」に対するものです。項目別評価につきましてはNo.20、内部評価実施シートにつきましては43ページから44ページにあります。

項目別評価の結果としては、図書室の活用のための中長期プランの作成が必要ということであり、Bとしております。

総評ですが、評価する取組としましては、ツイッターなどのSNSを実施し、フェイスブック

の準備も含めて、現在進行しております。また、「図書室の利便性」、これはアイヌ民族文化研究センター時代から、利用者の利便を図るために、従来無料で実施してきた取組でございます。しかし、博物館では、入場券を購入しないと入れないスペースにありますから、この点は図書室利用に限って、活用しやすく無料で利用できるよう改善しております。そういったところが評価すべきこととしてあげられます。

改善・注視を要する取組としては、「ICT機能の整備（全館的な視点に立った計画的な実施が必要）」ということで、特に外国人来館者へのサービスも含めまして、Wi-Fi等の設備を計画中ですが、今後、計画的に実施して参りたいと考えております。「図書室の基礎的機能」は、課題整理と計画的実施が必要で、注視しております。「レファレンス機能」は、オープン景気もあり、かなり問い合わせがあったのですが、レファレンスの対応を集約しきれていなかったことが反省点としてあり、全体集約ができるよう、改善して参りたいと思います。

総体的評価は、項目別評価は概ね妥当であり、B評価としております。以上です。

佐々木会長 ありがとうございます。続きまして総括評価の7と8です。小川センター長お願いします。

【総括評価項目7、8についての報告】

小川センター長 それでは、お配りした資料の14ページ、総括評価の7番になります。

総括評価7は、研究部の業務に関わる評価です。「研究成果を活かし、北海道の豊かな未来の実現に向けた措置」で、きちんと研究しなさいということと、研究成果を社会に発信して活かすような取組をしなさいということ、そのことに関わって外部からの研究員や実習の受入をきちんとしましょうという内容です。項目別評価は21番から23番まで、資料の内部評価実施シートでは、46ページから49ページが、該当する項目別評価です。

項目別評価では、比較的、ノルマとしておりました目標の数値を達成したことから、高い数字が示されております。特に、職員の対外貢献の促進は、この項目別評価では唯一のSがついたところで、これは件数的に外部への寄稿や講演等の件数が、目標値を大きくクリアしたからです。

この点も含めて、評価すべき取組としましては、博物館刊行物、特に、特別展の図録や、それから年度末の今、最終的な編集を進めておりますが、1年間の調査研究をまとめた研究紀要につきましては、発行体制を作って年度末に間違いなく発行できるところまでこぎつけたので、これに関しては評価すべき取組としております。

逆に改善・注視を要する取組としましては、目標数値に表れにくいところ、例えば博物館実習生は受け入れましたが、その後のフォローアップはどのようにできているかということ。あるいは外部と連携してやっていきますということ、これまでの総括評価の中でいくつか述べてきたと思いますが、そういったものを実際にやっていくにあたって、外来の研究員をこちらの博物館の協力員という形をお願いした時に、どういった体制で受け入れることができるかどうか。また、先ほど、研究紀要を刊行すると申し上げましたが、中身をもう少し良くしていく余地があるのかなのか、そういったところについて館の中でどういった編集体制や、1年間の最後の編集のところだけではなく、1年間の調査研究の進捗状況を、館としてどのように目標を立てて管理していけるのかなどが課題として残っていると判断しました。

総体的な評価で書かせていただきましたとおり、項目別評価ではある程度高い評価を出しま

したが、改善を要する案件がいくつかあることを勘案して、総括評価としてはBの判断をしたところでは。

次の総括評価の項目8が、アイヌ民族文化研究センターとしての総括評価になります。評価の視点は、「アイヌ文化の振興に寄与すると共に多文化共生社会の実現に向けた措置」となっており、博物館としてどういった取組をするかということでもあります。

項目別評価としては、15ページの下に1番から9番まで、内部評価実施シートの52ページから62ページまでになります。項目別評価の個々の説明は省きますが、最初にBが並んで最後にAが2つ入っています。2つのAは、この博物館として、この1年間に実施してきたアイヌ文化関連のイベントの実施数、あるいはこの博物館に見学に来た方に対するアイヌ文化に関するレクチャーの実施回数等の様々な取組の評価で、先ほど言いましたように、目標とした数値はある程度クリアできていることから、Aをつけております。

逆に、前半の1番から7番までBとしましたのは、例えば、総合展示を定期的に入替えていくことについては、目標としていた件数は達成しておりますが、事前の準備、あるいは入替えていく資料はどうやって充実させるかという点に、改善の余地があると判断しました。それから、博物館として、本来的には博物館の外部、道内の市町村でアイヌ文化に関する巡回展のようなものを開催したいと計画を立てており、これは専門部会の委員からも積極的に取り組んで欲しいというご意見をいただいたところですが、今年度は実施できませんでした。また、企画テーマ展等の特別展示室を使った展示の中でも、アイヌ文化に関するものを実施したという実績がなかったので、そういった部分も含めて今年度の評価としてはBをつけております。

ただし、今、申上げました市町村の巡回展、あるいは博物館の特別展示室を使った企画テーマ展等につきましては、来年度の平成28年度からは実施できるように、それぞれ今年度のうちに相手側と調整をして、実施の見通しを立てています。そういったところを見ていただいて、相対的な評価としては、次年度以降に向けた事業展開の準備を進めたという点を評価して、A評価をつけています。以上です。

佐々木会長 ありがとうございます。最後の項目で9番目を北総務部長お願いします。

【総括評価項目9についての報告】

北総務部長 最後に、総括評価9の「ガバナンス体制の育成」についてでございます。

「各々の措置を実施するために必要なガバナンス体制の確立に向けた措置」です。本項目につきましては、第一期の中期目標・計画には謳われておりません。第1回の本協議会における議論を経て、中期目標・計画とは別に定めた項目でございます。

結論から言いますと、総括評価は、十分に実施していることからA評価としております。

総評は評価すべき取組として、当博物館における運営会議が、館の管理運営等に関する重要な事項について協議・決定するという役割を担っております。旧開拓記念館時代は、開催回数が原則月1回でしたが、それを週1回に変更して館内の意思決定の迅速化を図ると同時に、情報の共有体制の強化を図っております。それから、本庁との連絡体制の強化につきましては、懸案事項でした「百年記念施設のあり方検討会議」が環境生活部文化・スポーツ課で設置され、第1回の会議が平成28年1月26日に開催されました。当館から主幹級3名が委員として参画しております。本業務につきましては、本庁と連携しながら取組を進めております。

次に改善・注視を要する取組でございますが、まず各グループ業務の運営について、指定管

理者を含めた全館的な周知の体制強化が必要ということが、課題としてあります。それから、「本庁各部署との連携により一層の強化を図る」ことであります。具体的には、昨年、博物館がオープンしましてから、環境生活部の業務ではありませんが、総合政策部知事室国際課と連携して、北海道とアルバータ州との姉妹提携 35 周年記念式典を当館の記念ホールで挙行させていただきました。また、経済産業省関係の行事であります。地方版クールジャパン推進会議を昨年の 8 月 29 日に同ホールで実施しております。以上です。

佐々木会長 ありがとうございます。

ただ今、総括評価項目の 1 番から 9 番まで、全一通りこういう項目でこのように A にしました、B にしましたとご説明いただきました。この全体の枠組みの見方についても含めて結構ですので、個々の評価項目・総括評価の内容についても結構ですので、もしご質問や確認したいことなどございましたら、委員の皆様ご自由にご発言ください。

《意見・提案 2》

大原委員 文化だと思うのですが、この総括評価シートを読んで、具体的な内容がわかると、次の時に評価しやすいと思いました。

例えば、総括評価 9 で評価すべき取組の文章の最後が「強化」と書いてありますが、改善・注視を要する取組も「強化」と書いてあります。これは、できれば、「強化できた」「強化できなかった」と書いてあるだけで、内容がぐっとわかりやすくなるのではないかと思います。実際に個別シートを読むと、「実施できた」とか「実施できなかった」というように、項目ではなく文章になっているので、それこそ文化だと思いました。10 行ぐらいでその要約が書いてある。要するに内部評価委員会が下したことを 10 行ぐらいでまとめていただくと、わかりやすいと思いました。疑問になったところは、個別シートに戻るぐらいの作りの方がわかりやすいと思いました。

佐々木会長 今のようなところ、他に関連してどうでしょうか。表記、総評の説明の書き方で何かありませんか。

大原委員 総括評価の書き方は、すべて項目なので、何がどのようになっているか、内部評価実施シートに戻らないといけないようになっています。

佐々木会長 みんな名詞で終わっているの、強化できたのか、できていなかったのか、不十分だったのか、十分だったのかがよくわかりません。

《意見・提案 3》

竹垣委員 2 つありますが、いいですか。

佐々木会長 どうぞ。

竹垣委員 1 つ目は、総評のところの表現に絡むのですが、総評には 2 つの表記が必要だと思うのです。要は、個々の達成状況に対する総括と、2 つ目は、その結果が結局この総括評価の目標とするところに、どのように資したかと。

例えば、総括評価 8 番で言ったら、15 ページの個々の項目についてはこのようだったと、このように評価していると報告しています。その結果として、アイヌ文化の振興に寄与したということに対しては、やっぱりもう少し書き込んで欲しいところもあります。寄与した、寄与しなかったと。まだ十分に進捗してないと。でも他を見ていると、例えば、13 ページを見ている

と、項目別評価は概ね妥当としてB評価としていますが、これではダメだと思うのです。まず妥当という判断がよく分からないし、結局これをやった結果、どういう知的興味に応えたとか、どうかということを判定して欲しいのです。

佐々木会長 そうですね。

竹垣委員 だから、そのように書かないと、我々が、今後外部評価をするときに、外部評価の実施項目の③番の整合性にバツを書くことになる。

佐々木会長 そうですね。

竹垣委員 そこは注意して欲しいというのが、1点目。

佐々木会長 今、竹垣さんがおっしゃったこの総評に書くべきこととして、実績としてどうだったかということですか。

竹垣委員 項目の評価が妥当であったかどうか、これは書かないといけない。

佐々木会長 項目別評価ですね。項目別評価の結果が、妥当かどうかということ。

竹垣委員 これは、やはり書かなければならないと思います。それが1つ。その結果、それをやったことが、総括評価の最初に書いてある基本方針に役立ったのかどうかということ。

佐々木会長 どういう影響を与えたのか、などですね。

竹垣委員 中核博物館として、地域の活性化に貢献したかどうか。

佐々木会長 それは大事です。

竹垣委員 それを書いて欲しいです。

《質疑応答4》

宇佐美委員 いいですか。

佐々木会長 竹垣委員の続きがありますが。

竹垣委員 もう1つは、個別の意見ですので、先にどうぞ。

宇佐美委員 先ほどの質問とも関係するのですが、要するに、現場が感じて評価した部分、この横長になっている表を一生懸命照らし合わせていたのですが、これを分けて欲しい。別冊にして欲しいです。

それはともかくとして、現場がやっている話と、それから結果的に委員会でこういう結論になったというところの差がすごくあって、現場が厳しめにした方が良いとして、せっかく厳しめに自己評価しているのを、「やあいいんじゃないか」みたいな感じで、こういう言い方はアウトで申し訳ないですが、何かすごく違うと思っています。

先ほど言ったように、委員会がどういうメンバーで、どういう議論が行われて、そしてこのような総括評価結果になったということが、分かるようで分からないところがあります。だから、現場からあがってきている部分について、先ほど竹垣さんがおっしゃったように、この評価が妥当かどうか、それについてのディスカッションの部分が報告書に書かれていないと、いきなり何でこうなるのかと思うところがあります。

例えば、先ほどの8番のアイヌの文化のところですが、現場はかなり厳しく、不満だと評価している訳です。それが総括評価で十分実施していると判断していますがけれども、そこに次年度の計画にまで踏み込んでいます。次年度の計画にまで触れてしまうと、これは今年度の評価になるのか、疑問です。

どうしてこんなに乖離があるのかと疑問が湧いてくるので、納得できるようにして欲しいで

す。先ほどの説明で少し分かりましたけれども、資料を読んだだけでは分からない。もう少し丁寧に示して欲しいと思いました。

佐々木会長 今のところで何かありますか。事務局側から。

吉田副館長 実は、試行錯誤をしながら今回やらせていただいたのですが、総括評価の書き方については、大原先生から言葉足らずで分からないということでした。これは私の指示で、ここは簡潔にした方が良くしました。これは、本当に試行錯誤の段階で、項目別評価はかなり細かく書き込んでいますので、それを総括評価では少し簡略化した方が良くはないかと考え、内部議論でこのようにさせていただきました。意見をいただきましたので、また再度検討していきたいと思います。

それから、特にアイヌ文化の8番ですが、項目別評価ではB評価としていて、総括評価でA評価にしているのですが、全体的に見て、項目別評価は、より現場、本当に現場に近い各グループが評価をしております、それを総括評価で、ある程度、幹部職員が全体を見渡して評価を実施しております。つまり、かなりグループ間で温度差がありまして、出てくる評価にSが出たり、Bが出たりと温度差があったものを、総括評価で全体を均して、同じレベルで見て評価をしたつもりです。

その辺、やや言葉足らずのところもございますので、今後の反省点として検討して行きたいと思います。

佐々木会長 ありがとうございます。次に本田先生どうぞ。

《意見・提案4》

本田委員 ここまで博物館でお仕事されたこと、本当にすごいと思います。お疲れ様でございました。

それで、できればの要望なのですが、例えば改善を要する取組とあるのですが、個人の職員だけでなんとかなるものと、そもそも予算組みで、それは無理だというものがあるような気がします。それぞれの業務について、博物館全体の予算の中でどれぐらい占めていて、予算が付いているのか。もちろん、この場で協議会委員が予算に口出しすることはできないこと自体は承知しているのですが、「これだけ予算が付いていても、結果はこれなの」というものと、「この予算の中でこれだけはできた」というのでは、やはり評価の仕方に影響してくると思うのです。ですからもしも可能であれば結構ですが、そのようなことも今後記載していただければ、外部評価の際の参考にできると思います。

佐々木会長 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

《意見・提案5》

竹垣委員 やはり、組織的な活動を始めたばかりの博物館ですから、そんなにいい評価であるはずがないと思うのです。そこは我々も斟酌できますので、逆に難しいところからスタートすることでいいのではないかと思います。予算も足りないということも含めて、赤裸々に書いていただけたらいいと思います。

私の要望ですが、例えば総括評価の4番、11ページですが、これは非常に大事な活動であると思います。やはり、北海道博物館という名前を名乗る以上、北海道でみんなが知りたいこと、課題と思っていることは、取り上げるべきかと思えます。これはアイヌ文化も当然そうな

のですが、特に来年ということになると、例えば、世界遺産に繋がる縄文遺産のこと、これは北海道博物館が率先しないでどこがやるのだというような活動です。もう1つは、例えば、再来年の北海道150年。ここは、北海道百年事業の落とし子としてできた博物館ですから、これを総括する責任があると思うのです。具体的に中期計画の中で、こういうことやるのだということは決めて欲しいと思います。

先ほど答申にもあった道民参加型の組織ですが、これは、来年の目標の方向性の確立としか書いてないのですが、ちょっと甘すぎると思います。もうちょっと高い目標を掲げて、少なくとも試験的にスタートさせるぐらいの勢いでやっていただけないかというのが、個別の私の意見です。

佐々木会長 ありがとうございます。どんなレベルのご意見、ご質問でも結構ですから、いかがですか。

《意見・提案6》

加藤副会長 9ページで、先ほど館長の挨拶でも出たし、これだけ利用者が入ったと言うから、これだけ入ったのには、どういう内訳でどうだったかということの理由がよく見えない。竹垣先生がおっしゃった、将来に向って何をやるのかということも、これからの話になってくるのかなと思っております。一番良かったのは、何で倍も入ったのか、3倍も入ったのか、そのこと自体がどこで示されていないし、どういう言葉で言っているのかも見えない。

合わせて、12ページでネットワークというけども、何のネットワークなのかが見えない。ただ、どこかの博物館と博物館のネットワークと言っても、それは言葉の遊びである。具体的にどういうネットワークなのかということが見えない。こういう書き方は誰でもできるので、そうではなくて実際にどうやるかというのが大切だと思うのです。北海道の博物館なのだから、北海道としてどうするのかです。

例えばの話、北海道全体がアイヌ語の地名です。松浦武四郎が歩んだその道をどうすべきかということも、北海道全体の地図の中でどのように描くか。そのネットワークはどうするのかということが、これから問われると私は思っています。評価だけを弄んでいるように見える。評価を弄んではダメ。理論と実際だから、実際にやるための評価じゃなければダメだと思います。以上です。

佐々木会長 今のご意見、事務局どうですか。最初の質問とか。総括評価5番のところのネットワーク等の件ですとか、補足はないですか。

右代学芸主幹 内訳については、かなり資料がたくさんになりますので、数値的な評価で見ただけならば非常に助かります。我々が報告した中では、オープン以来、たくさんの方に来ていただいたことと、夷館列像がかなり当初の計画より来ていただいたことと、その後、またテーマ展などで、いろいろと注目されているのが、この実数になっていると思います。

それから、将来に向けてどうするのかという点については、しっかりした考え方が、まだこれには示されておりません。事務局の考え方としては、項目別評価のシートに、平成28年度の年度計画(案)を示している訳ですが、これは、今年の評価を実施した中で、いろいろな点検をし、このところは甘かった、このことはしっかりやった、そういうことに立って、これを基本的に中期目標・計画の中の具体的な各年度の毎に、どのように反映していくかを努力していきましょう、ということでございます。平成28年度の事業計画をこれから立てていくために、

年度計画（案）を示しているところでございます。

先ほどの松浦武四郎の北海道の地名についても、研究プロジェクトのように、しっかり議論した中で、どういうプロジェクトにしてどういう事業に展開させていくかを、まだ1年経ったばかりなので、今後、研究部長や学芸部長を中心に検討していくことを考えております。

加藤副会長 評価するという自体、私は非常にいいと思っています。ただ、やはり理論と実際だから、ただ言葉だけ踊ってもダメということだけは事実だから、よろしく願います。

右代学芸主幹 ありがとうございます。

《質疑応答5》

本田委員 9ページの「改善・注視を要する取組」の3番目に、外国人利用者の数が目標値に達していないとありますが、10ページには多言語対応の音声解説サービスが来年度から運用できると報告されています。

これはとても大事なことだと思うのですが、このサービスが運用されるようになったら、目標値を達成できるのか、あるいは飛躍的に伸びるのか、お考えを伺いたいです。やはり開館当初は、たくさんのお客様がみえると思うのですが、段々それが落ち着いてきた時に、インバウンドの方々に来ていただくことも大事だと思います。我々が海外に行ってその土地を知ろうと思った時に、やはりその総合博物館に行きますから、そのことを希望する方々がとても多いと思うのです。その方々をどうやって取り込むのかということに対して、具体的なプランを立てていらっしゃるのかどうか、少なくともこの目標値を達成するためにはどうしたらいいのかということをお尋ねしたいと思います。

佐々木会長 事務局の方、分かる範囲でお願いします。

舟山学芸部長 ご指摘の通り、9ページと10ページの関係は低迷した部分ですが、今年度も何もしてなかったわけではありません。総合展示場内での多言語ボードの設置など、対応はしていたのですが、改めてこれでは弱いということで、来年度以降の取組のために、今年度中に10ページの多言語解説を付加する形で進めていきたいと考えております。

合わせて、「赤れんがサテライト」も評価が低かったのですが、外国人のお客様の多い施設です。そちらにいらっしゃる外国人のお客様に対しての対応をどうするのか対策を立てて、新たな資料配置ですとか、映像等によるPRをするなど、検討を進めているところです。

佐々木会長 これをやることによって、外国人利用者の増加を見込めるというロジックですか。

舟山学芸部長 来年度以降は、10ページにあります多言語解説をメインの売りとして、外国のお客様を招き入れたいという考えでおります。

佐々木会長 当然、この多言語サービスの広報も必要であるし、外国の方に情報が通じるようなメディアも使っていくということですね。

舟山学芸部長 Wi-Fi設備等も準備していきたいと考えております。

《質疑応答6》

加藤副会長 例えば、登別の駅に案内役の中国人がいる。そうでないと行き先がわからなくなる。英語は、もちろんできる人がそこにいます。北海道博物館も、そういうことも将来的には考えていますか。考えていませんか。

北総務部長 現在進行形の話して恐縮ですが、先だって本庁を經由して、JR森林公園駅のバス

案内のことで外国の方が困っているとの苦情が一般の方からありました。バス停が新札幌に行くものと、博物館・開拓の村に行くものと2ヶ所ありますが、行先が時刻表を見ないとわからず、また、日本語表記しかされていないため、どちらに乗ったら良いかわからないので、英語表記でわかるようにしてほしいとのことでした。本来であれば、バス事業者がやるべきことです。

駅からバス停に行くまでの線路下の自由通路は、札幌市の所管ですので、調整の上、博物館側で年度末までに英語表記で標示することにしております。それから、バス停そのものの英語表記については、ジェイ・アール北海道バスと掛け合い、4月1日には間に合わないが、5月の連休前までに対応したいとの回答を得ております。

加藤副会長 おもてなしだね。最初は、そこから始まっていくのが、おもてなしだと思っています。

佐々木会長 ありがとうございます。

《意見・提案7》

宇佐美委員 要望ですが、いいですか。

佐々木会長 どうぞ。

宇佐美委員 私たち民間企業の社員の評価にもありがちなことですが、こういう評価SからCまで作ると、AとBしか付けられないことがよくあります。それが大体無難だからと。そうすると、きちんと評価できているかどうか、毎回、私どもの企業の内部でも問題になり、きちんと評価をつけろという意見が出てきます。最初なので要望ですが、せっかく作ったので内部評価の基準でSからCまでであるので、そのようによくお願いしたいという要望でございます。

佐々木会長 ありがとうございます。児島先生、何かいかがですか。

《質疑応答7》

児島委員 お聞きしてもいいのかどうか迷いながらいたのですが、先ほど本田先生がおっしゃった9ページの外国人利用者数です。

最初の時に私も申し上げましたが、それは道民、道民と書いてあるけど、外国人の方が来ることについては、どういう関係になっているのかを申し上げたことがありました。外国人利用者数の目標値が達成されたら、逆の見方ですが、それはどのように評価されることになるのか、と私は思うわけです。先ほどやり取りがありましたように、それは広報が良かったからなのか。多言語に対応するというのは、博物館に行ってみたら中国語の説明があったとか、そういうことはあるのでしょうか。誘導する、例えば、先ほど加藤副会長が登別の事例をおっしゃいましたが、例えば空港に、日本に来て北海道に来たのであれば、是非北海道博物館に来るべきだというような広報が、どれだけあるのか。どのように来てもらうPRをするのかということが、どうなっているのかと思っていました。

それから、先ほどから何度も出ていますけれども、15ページがやり玉になっていますが、隣の14ページを見ますと、評価基準がSとAなのにBになっている。このギャップはいったい何なのかと思ったわけです。単に点数は達成しているけれども、その質を考えるとあまり評価できないという話になっているわけですね。では、質の中身とはいったいどういうものなのか、という疑問は湧くと思います。

それから非常に細かいことになってしまいますが、冒頭のところで、21 ページを拝見しますと、資料の収集が真ん中のところであって、数値がいろいろ書かれています。それで、例えば、各研究グループから情報が提出された資料について、それを受け入れるかどうかという審査を審査会で行っている。例えば、収集しない、それは北海道博物館としては収集しないのが、57 件中 25 件という数字があがっていますけれども、収集しないことになった理由が、一体どういうことで収集しないのか。北海道博物館では収集しないが、これは他の博物館では重要な資料ではないかと、北海道博物館として、北海道の中核の博物館としての役割として、助言などをされているのか。そういうことは、評価としてはどのように反映されるのでしょうか、ということをお聞きしたいと思っていました。

佐々木会長 あとの2つの質問について、事務局にお聞きしたいです。まず14 ページと15 ページ、これは小川研究部長のところだと思いますが、特にコントラストが一番激しいところです。個別でA、Sと書かれていて、総括でBになっている。片や、反対の15 ページはBがずっと続いているけど、総括はAとなっている。この点について、最後総括するに当たって、もしくは個別評価に対して、どういう議論があったかなどをご紹介いただけますか。

小川センター長 竹垣委員が先ほどおっしゃいましたが、立ち上がりの時期なので、課題は課題としてはっきりさせた方が良いというのが、アイヌ民族文化研究センター長としての私の考えです。これはセンター職員全員に基本的な方針を説明した上で、課題をはっきりさせたいので、できていなかったことはできていない、としたいことからBにしました。

ただし、評価の際に、今年は立ち上がりの時期で、今すぐやれと言われてもできないけれども、来年度に向けてこういうことだけは準備していることは、全て評価に書き入れる形にしたくて、ただ来年度やりますということだけではなくて、そのための準備はこういうところまではしています、という形で出したので、最終的な総括評価のところではAとしております。こちらはBだけれども、館としての評価はAになったということでございます。

逆に、総括評価7番は、先ほど言いましたように、担当したグループで目標として設定した数値はクリアしていることから、評価がそれぞれあがってきたわけですが、総括評価の中では課題は整理した方が良いということで、件数としてはこなせているが、こういうところのフォローアップや中身の検討ができていかなどの課題を出していき、最終的には課題が残っている点を重く見たということです。

ここに関しては、例えば、評価項目や数値設定がどれくらい妥当だったのかということは、多分中期的な作業をしたら、行き着くのだらうと思います。100 件にしたのが甘くて、150 にすれば良かったのか、それから数としてこの数字をあげているけれども、その中身やフォローアップを入れていった方が良いのではないかと、もう一度、次の検討に入ると考えています。

佐々木会長 ありがとうございます。もうひとつ、児島委員のご質問の中にあつた、21 ページの収集しなかった25 件の、その後について、簡単なコメントあればお願いします。

舟山学芸部長 21 ページの関連で審査会の関係です。審査会と言いますのは、開拓記念館時代には、資料収集の判断を研究の専門分野に、資料の分類分野が10 分野にあつたのですけれども、その専門分野に委ねていた部分がありました。その結果、16 万点という収蔵庫のキャパシティを超える収蔵資料が集まったわけですが、そういった資料を再整理して、センターとの統合に合わせてセンター所蔵約2 万点と合わせまして、18 万点となりました。その際、今後、新たな資料を収集するにあたって、必ず審査会を経る形になりました。

その審査会を経て、収集しない25件というのが今出た部分です。57件中、収集しない25件につきましては、基本的な判断として、既に収蔵されているものについてはお断りする。あるいは、博物館で保管するよりも、例えば各市町村で保管した方が良いと判断したものについては、そちらの市町村を紹介して保管してもらおうというような流れです。基本的に、判断材料は、北海道博物館として、その自然・歴史・文化を物語る資料として、いただく資料はいただく。いただかない資料は、その判断として、重複したものについてはいただかない、あるいは地区市町村で保存すべき資料については、そちらの方を紹介する流れで進めております。

佐々木会長 ありがとうございます。

《質疑応答8》

竹垣委員 結局、中期計画を見ていて、やはり若干違和感を感じると、ずっと思っていました。やることはいろいろ書いてあるのですが、結局、意志みたいなものが良くわからないです。

どういうことかと言うと、例えばイオン北海道では、2016年は「健康」をテーマに、人が健康になるにはどうしたらいいのかを、例えば食べる物など、いろいろ皆で考えて、それを強化方針にしようと、「Wellness」(健康増進)ということでやろうと、方針を決めていくわけです。

だから、北海道博物館が2016年、2017年は、どういうことを主張していきたいのか、そういうことがないので、結局、何のためにやっているのかという根本的なところが見えない。

逆に聞きたいのですが、北海道博物館のそもそもの方向性として、北海道博物館は北海道の文物の様々なものに対する、様々な意見を無批判に集約していく、とりあえずいろいろな意見がありますねという博覧会的な集約を目指す博物館ですか。それとも、そうではなく、北海道博物館という以上、ダイバーシティに対して、いろいろな意見はあるにせよ、いろんなことに対して一定の答えを出していく、ある種の収斂を目指していく博物館なのか、どちらなのか。

佐々木会長 どなたかお願いします。博物館の方。

竹垣委員 今というよりも、中期的にどうか、ということだろうと思うのですが。

石森館長 委員の皆様から、大変貴重なご意見を承ったところでございます。私が内部評価委員会の委員長でありますので、一言申しあげます。

お手元に資料1という形で、実績報告書を出させていただきました。実は、私個人としては奇跡的と思っております、実際に実務面でこれだけのもの、ご指摘のように様々な問題点があることは事実ですが、本当にここまで本日の博物館協議会に間に合うように、実質・実務的にやってくれました。グループ全体に関わることで、データ集めるだけでも大変、それを報告書にまとめるのも大変で、私は多分不可能だろうと思っておりました。それを実現してくれましたので、館長としては奇跡的ではないかと評価しているところでございます。

確かに、博物館として1つの基本方針を定めて、1つの方向に向けて私は進めていきたい。だけど、現実には、旧開拓記念館時代から1つの方向性を持った博物館ではなかったのです。従いまして、今、私が館長として、今年度はこの方針でやるとしますと、館内で、なぜそのような1つの方向だけに動かすのかという意見が出て参ります。それに対しては、このような内部評価をきちんと各館員が実施しておりますので、こういうことを1つのベースにしながら、私は一步一步進めていくべきことだろうと考えております。

館長個人の内部評価としては、私も館員も、この一年間、本当に北海道博物館がどういう博

博物館になるべきかを個々に考えております。皆様からのご指摘のように、実績評価報告書としては不十分な部分が多々あるかと思えます。これは私個人も認めているところでありますが、これはステップであろうと考えております。こういうものを1つ1つ積み重ねることで、1つの博物館としての形が整ってきて、数年後には竹垣委員のご指摘のように、博物館として1つの明確な方針が館員の合意の下ですぐに打出せる博物館に、是非ともなっていて欲しいと考えております。

来年度に向けて、しからは、竹垣委員のご指摘のような形が作れるかという、館長としては、それは無理であるとしか言いようがない現状でございます。竹垣委員のご指摘は、幹部一同、十分に重いご指摘として受け賜りますが、博物館全体はまだそういうレベルに達していないという判断を、私個人としてはしているということを報告させていただきます。

佐々木会長 ありがとうございます。他に委員の方、この内部評価報告書について、何かご意見ございますか。

《意見・提案8》

加藤副会長 やはり、「将来に向けて、このようにする」というものは示した方がいいです。評価を実施することは非常にいいと思う。このことをこうやるということ自体は、非常にいいと思う。そのことによって、何が見えるかということだと思うが、竹垣委員がおっしゃったように、やはり何をすることが大事です。北海道博物館として、ただ北海道の生活のことをやるとか何とかではなくて、何をやるかということ、やはり見出していかないといけないと思っております。

佐々木会長 ありがとうございます。

《意見・提案9》

竹垣委員 1つだけ、エピソードを言わせてもらってもいいですか。

佐々木会長 どうぞ。

竹垣委員 イオン北海道に、小学生の環境保護団体のチアーズクラブというものがあります。今回、北海道博物館ができたということで、釧路とかそういうところの子どもも博物館に行かせるようにしています。

先週、その活動報告会があって、博物館に行ってきたという団体が、どんなことを報告したかということ、アイヌ民族の生活と私たちの生活というテーマで、縦軸に食べたものとか、住まいとか、ものの考え方とかを示し、横軸にアイヌ民族、私たちと書くわけですが。食べ物に関して言えば、自分の身の周りあるものを何々してなんとか食べた。私たち日本の食べ物は30%しかない、など書いてあるわけです。すごいのは、その横に、私たちは今後どうしていったらいいか、ということが書いてある。一個、一個に。

小学生ですから、そんな難しいことは言わない。やはり、ゴミは持ち帰るとか、そういうことばかりなのですが。何が言いたいかというと、その小学生たちは、北海道博物館に行ったことで、何か答えを持ち帰ろうとしているのです。真摯に。それはアイヌ民族の生活とわれわれとを比べることであるとか、いろいろなことだと思うのです。やはり、そういう子供たちや、小学生がいっぱいいるということを、博物館の方は是非認識していただきたいと、ご紹介しました。

確かに、館長が言われるように、意見をまとめるのは大変なのはよくわかります。しかし、アメリカ人に、僕が「ここいいよ」と言ったら、「この博物館は、何が言いたいんだ」と聞かれるわけです。やはり、今はそのような時代なのだろうと思います。北海道博物館と名乗った以上は、やはり、そのような方向性を、北海道の将来を指し示すということを、外国の人、日本人、北海道の人、札幌の人に、是非目指していただきたい。これは最後をお願いします。

加藤副会長 私も、今の意見に本当に賛成です。一口で言うと、共生の社会をどのように目指すか、それに尽きると思います。よろしく頼みます。

佐々木会長 ありがとうございます。そろそろお時間になりましたので、今いただいた意見については、事務局で整理いただいた上で、特に内部評価のやり方、進め方についても、来年の3月までには改善いただければありがたいと思います。お願いいたします。

議題（3）その他

佐々木会長 その他、事務局から説明をお願いします。

右代学芸主幹 それでは、事務局からご説明をいたします。

今後のスケジュールについてお話したいと思います。資料は、今、お配りしております。これで平成27年度の協議会は終わるわけですが、また新たに平成28年度の協議会を開催していきたいと考えております。日程等は、事務局で調整させていただきますが、大まかな予定をご説明したいと思います。

資料の平成27年度のところでございますが、これは先ほどご説明した通りに終わっております。平成28年度は、6月に第1回の協議会を開催したいと考えております。この内容は、平成28年度の事業計画をご説明して、ご意見をいただくことになると思います。それを受けて、7月にはアイヌ民族文化研究センター専門部会を開催できればと思っております。平成28年度の3月でございますが、また内部点検を行いまして、その時に、今回ご指摘いただいた内容も含めて整理して、さらに外部点検を実施していただくこととなります。このように、平成28年度の計画を考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

平成29年度、30年度、31年度以降は、資料のように進むこととなりますが、大まかな考え方として、答申をいただいたように、平成29年度に外部評価をお願いしたと考えております。それと、平成31年度にも外部評価をいただいて、博物館の評価をしていただくことになると思います。このように計画をしておりますので、ご了解いただければと思います。

以上でございます。

4 閉会

佐々木会長 今のことについて、何かご質問などいかがでしょうか。なければこれで、第2回北海道立総合博物館協議会を閉会したいと思います。皆様ご協力ありがとうございました。